



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	生活クラブ生活協同組合センター兼本部	階数	2
建設地	厚別区大谷地東1丁目434番49、250	構造	S造
用途地域	準工業地域/防火指定なし	平均居住人員	60人
建物用途	事務所・工場	年間使用時間	3,600時間/年(想定値)
竣工年	2022年9月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	3,749㎡	評価の実施日	2021年11月19日
建築面積	1,107㎡	作成者	
延床面積	2,098㎡	確認日	
		確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★☆ **B+**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

**標準計算**

①参照値	100%
②建築物の取組み	78%
③上記+②以外のオンサイト手法	78%
④上記+オフサイト手法	78%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

**2-4 一次エネルギー消費量の評価**  
建物全体の[BEI][BEIm]= **0.65**

### 2-5 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Qのスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR 環境負荷低減性** **LRのスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

### 3 設計上の配慮事項

<p><b>総合</b> エコ建材の採用に積極的に取り組む。内装壁クロス全般にはウッドチップ壁紙を採用、内装壁の一部には地元建材の「道南杉」を使用した木製壁材を採用する。また、敷地内にEV車充電設備を設ける。</p>	<p><b>A 省エネルギー</b> 開口部ガラスにはペアガラスを採用、居室は内側に樹脂サッシを付けて2重にする。照明はLEDを全面的に採用する。</p>
<p><b>B 省資源等</b> 外壁や内装材に耐用年数の長い建材を採用。断熱材はノンフロンタイプを採用。内装材は軽鉄+PBとして躯体と分離し、事務所床にはOAフロアを採用する。</p>	<p><b>C 緑化</b> 植栽は芝と中木を併設し沿道に植え、周辺に緑環境を提供する。</p>
	<p><b>D 雪処理</b> 冬期間雪の堆積場を確保できるように、駐車スペースにゆとりを持たせた計画とする。</p>

### 4 ほかの認証・評価制度の利用

(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	-	BELS認証	-	LEED認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0						
生活クラブ生活協同組合センター兼本部		■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)						
スコアシート		■欄に数値またはコメントを記入						
実施設計段階								
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境					0.36		-	2.9
1 音環境				3.0	0.15		-	3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40		-	
1.2 遮音				3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-	
1.3 吸音				3.0	0.20		-	
2 温熱環境				2.0	0.35		-	2.0
2.1 室温制御				3.0	0.50		-	
1 室温				3.0	0.38		-	
2 外皮性能	省エネ			3.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20		-	
2.3 空調方式				1.0	0.30		-	
3 光・視環境				3.5	0.25		-	3.5
3.1 昼光利用				4.2	0.30		-	
1 昼光率			2階本部事務所の昼光率=8.72%	5.0	0.60		-	
2 方位別開口					-		-	
3 昼光利用設備	省エネ			3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30		-	
1 昼光制御	省エネ			3.0	1.00		-	
2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度			事務所(机上)の設計照度=850lx。	4.0	0.15		-	
3.4 照明制御				3.0	0.25		-	
4 空気質環境				3.6	0.25		-	3.6
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質			内装床・壁・天井・天井裏の建材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用している。	4.0	1.00		-	
4.2 換気				2.6	0.30		-	
1 換気量				3.0	0.33		-	
2 自然換気性能			自然換気有効開口面積が居室床面積の1/20以上。	4.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.33		-	
4.3 運用管理				4.0	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御			全館禁煙とする。	5.0	0.50		-	

Q2 サービス性能				0.30	-	-	3.0
<b>1 機能性</b>				<b>2.8</b>	0.40	-	<b>2.8</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>				<b>2.0</b>	0.40	-	
1	広さ・収納性			3.0	0.33	-	
2	高度情報通信設備対応			2.0	0.33	-	
3	バリアフリー計画			1.0	0.33	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>				<b>3.6</b>	0.30	-	
1	広さ感・景観 (天井高)		1階センター事務所、2階本部事務所の天井高さ=2,700。	4.0	0.33	-	
2	リフレッシュスペース		1・2階事務室の床面積の合計393.16㎡(137.10+256.06)に対する2階給湯・休憩室19.37㎡は約5%確保。	4.0	0.33	-	
3	内装計画			3.0	0.33	-	
<b>1.3 維持管理</b>				<b>3.0</b>	0.30	-	
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.1</b>	0.30	-	<b>3.1</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>				<b>3.0</b>	0.50	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>				<b>3.8</b>	0.30	-	
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	ガルバリウム鋼板の皮膜寿命は25年以上(メーカー資料)	4.0	0.20	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	床:ビニル床シート・タイルカーペット(20年)、壁:自然素材クロス(20年・メーカー資料)、天井:岩綿吸音板(30年)。	5.0	0.10	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源		3.0	0.10	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	2種以上にB以上を使用し、Eは不使用。	5.0	0.20	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源		3.0	0.20	-	
<b>2.4 信頼性</b>				<b>2.6</b>	0.20	-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	
3	電気設備			3.0	0.20	-	
4	機械・配管支持方法			1.0	0.20	-	
5	通信・情報設備		①LAN配管を設ける。②精密機器は地下空間へ設置しない。③有線電話配管を設ける。	4.0	0.20	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			3.1	0.30	-	-	3.1
<b>3.1 空間のゆとり</b>			3.4	0.30	-	-	
1 階高のゆとり			3.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率≒0.14(2階にて計算)	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.34	-	-	2.2
<b>1 生物環境の保全と創出</b>	緑化		1.0	0.30	-	-	1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>	緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雷処理		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	3.5
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	3.8
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>	省エネ	[BPIm]=0.58	5.0	0.13	-	-	5.0
<b>2 自然エネルギー利用</b>	省エネ		3.0	0.11	-	-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.65 -	4.5	0.55	-	-	4.5
<b>4 効率的運用</b>			2.0	0.22	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	3.4
<b>1 水資源保護</b>			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓、節水型便器、擬音装置を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	内装床:長尺シート(天然系リノリウム)	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源	ウッドチップ壁紙に使用するウッドチップは持続可能な森林から産出された木材を採用。	4.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	①躯体と仕上材が容易に分離可能となっている。②再生できるユニット部材(OAフロア)を採用。	5.0	0.20	-	-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源	発泡ウレタン等はノンフロンタイプを採用。	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	省資源	ライフサイクルCO2排出率=76%	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 軽減		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		①駐輪スペース8台分、②駐車スペース55台分、③荷捌きスペース(大庇下)の確保、④乗入口を複数設け搬入車両と一般車両の動線を分ける。	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 費処理		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

<b>1 建物概要</b>		BEE	1.2	BEEランク	B+
建物名称	生活クラブ生活協同組合センター兼本部				
建物用途	事務所,工場				
延床面積	2,098.2 m <sup>2</sup>				

<b>2 重点項目への取り組み</b>		<b>レーダーチャート</b>	
地球温暖化対策	最重点項目 <b>省エネルギー</b>	★★★★☆	<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★☆☆☆	
	雪処理	★★★★☆	

<b>3. 重点項目のCASBEEスコア</b>							
<b>A 省エネルギー</b> ( 最高点 22.8 最低点 6.6 )				<b>合計</b>		<b>17.0点 / 22.8点</b>	
Q1 温熱環境	スコア	0.5 / 0.9	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	2.5 / 2.5		
Q1 光・視環境	スコア	1.2 / 1.9	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.3 / 2.2		
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	9.8 / 10.9		
			LR1 効率的運用	スコア	1.7 / 4.4		
<b>B 省資源等</b> ( 最高点 23.9 最低点 7.7 )				<b>合計</b>		<b>16.1点 / 23.9点</b>	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.9 / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	6.1 / 9.0		
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0 / 2.5	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.7 / 1.9		
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.8 / 5.0		
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.6 / 4.4		
<b>C 緑化</b> ( 最高点 16.8 最低点 3.4 )				<b>合計</b>		<b>7.5点 / 16.8点</b>	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.0 / 5.1	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 / 2.5		
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.0 / 6.7					
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0 / 2.5					
<b>D 雪処理</b> ( 最高点 3.0 最低点 0 )				<b>合計</b>		<b>1.0点 / 3.0点</b>	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 / 2.0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数  
 ■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数